

黎明館常設展示一部リニューアル事業完了報告

主任学芸専門員兼学芸課企画資料係長 吉井 秀一郎

はじめに

鹿児島県歴史資料センター黎明館（以下：当館）は明治百年を記念して、郷土の歴史、文化遺産等に対する県民の理解と認識を深め、県民の文化活動及び学術研究に寄与するための施設として設置され、昭和58年10月に開館した。平成8年10月21日に常設展示をリニューアルオープンし、平成13年6月13日に「公開承認施設」として承認され、同年、入館者数が500万人に到達した。また、平成27年4月21日に「博物館博相当施設」に指定され、平成30年8月7日には入館者数が1,000万人に到達している。

2回目のリニューアルに当たる今回の常設展示一部リニューアル（以下：リニューアル）事業は、明治維新150周年を契機として行われたもので、平成28年度の先進館調査から始まり、令和元年7月19日のリニューアル・グランドオープンまで、3か年超の期間を要した。以下、事業内容について報告する。

第1章 組織と業務

平成28年度

鹿児島県歴史資料センター黎明館

館 長 灰床 義博
副館長兼総務課長 生見 博志
課長補佐兼総務課総務係長 尾堂 隆雄

<担当>

学芸課長 林 匡
専門員 種田 明人
学芸専門員 吉井秀一郎
学芸専門員 新福 大健

<企画書作成業務>

株式会社 丹青社

<基本設計書作成業務>

株式会社 丹青社

平成29年度

鹿児島県歴史資料センター黎明館

館 長 灰床 義博
副館長兼総務課長 福永 徳郎
課長補佐兼総務課総務係長 松林 俊英
学芸課長 内倉 昭文

<担当>

主任学芸専門員兼学芸課企画資料係長 吉井秀一郎
専門員 田中 裕二
主事 小野 恭一

<実施設計書作成業務>

株式会社 丹青社

<第I期展示制作業務>

株式会社 丹青社

平成30年度

鹿児島県歴史資料センター黎明館

館 長 酒匂 司
副館長兼総務課長 永山 達也
課長補佐兼総務課総務係長 藤田 眞一
学芸課長 内倉 昭文

<担当>

主任学芸専門員兼学芸課企画資料係長 吉井秀一郎
専門員 田中 裕二
学芸専門員 吉村 晃一
主事 小野 恭一
資料調査編集員 大島 綾佳
資料調査編集員 飯伏 美朝

<第II・III期展示制作業務>

株式会社 丹青社

<資料移動・展示業務>

日本通運株式会社鹿児島支店

令和元（平成31）年度

鹿児島県歴史資料センター黎明館

館 長 酒匂 司
副館長兼総務課長 西川 秀和
課長補佐兼総務課総務係長 山下 政治
学芸課長 内倉 昭文

<担当>

主任学芸専門員兼学芸課企画資料係長 吉井秀一郎
専門員 田中 裕二
学芸専門員 吉村 晃一
主事 小野 恭一
資料調査編集員 飯伏 美朝
資料調査編集員 田平 晶子

<第II・III期展示制作業務>

株式会社 丹青社
〈資料移動・展示業務〉
日本通運株式会社鹿児島支店
〈多言語データ登録業務〉
株式会社エヌ・ティ・ティ・データ九州

第2章 概要

目的

当館が、明治百年を記念して設置されたものであることを踏まえ、明治維新150周年を契機として、当館で収集した資料を活用し、最新の研究成果や、新しい展示技術を導入して、より分かりやすく、楽しみながら鹿児島の歴史と文化を学べるようにするため、常設展示のリニューアルを行う。

前提

リニューアルに当たり「明治日本の産業革命遺産」(世界文化遺産課)や、「明治維新150周年記念事業～明治維新と郷土の人々～」(鹿児島県知事公室政策調整課)との関連性についても踏まえたものとする。

事業計画

1 基本的な考え方

- (1) 明治維新150周年にちなんだ展示内容のリニューアルを行う。
 - ・明治維新において鹿児島が果たした役割
 - ・明治日本の産業革命のリーダー役を担った鹿児島の先進的な取組
 - ・明治維新と鹿児島の市井の人々の暮らし
- (2) 必要な照明機器や最新の技術を導入して、資料の展示環境の向上を図る。
- (3) 常設展示のサイン・解説など、県内はもとより、国内外からの入館者に分かりやすい展示とする。

2 リニューアル前の状況

- (1) 2階部門別(歴史)
 - ・個々の人物紹介のスペースが狭い。
 - ・一部パネルが固定されており移動に制約がある。
 - ・「発見かごしま」コーナーは、構造上展示替えが困難
 - ・特設コーナーに展示替え可能なハイケース1台を使用
- (2) 案内関係
 - ・章パネルの記述に、最新の研究成果を反映し

ていないものがある。

- ・展示資料のキャプションが小さいとの意見がある。
- ・説明内容は、中学生以上を対象としているが、分かりづらいとの意見がある。

(3) 多言語表記

日本語・英語・韓国語の3か国語

(4) 携帯情報端末

なし

(5) 鹿児島(鶴丸)城関係

望岳堂で鹿児島(鶴丸)城本丸部分のジオラマを展示

3 2階常設展示(明治維新コーナー)のリニューアルの具体的な内容[画像1・2]

(1) 薩摩藩と明治維新

①「明治維新とは」

映像演出(スライドショー)とパネルを用いた「明治維新とは」をテーマにした解説

②欧米列強の接近と情報収集

江戸藩邸や小松帯刀邸などの情報拠点の絵図や、横浜・長崎の情報、琉球などからの情報に関する資料の展示

③外城制度と人々の暮らし

薩摩藩の外城制度の解説と、そこで暮らす人々の様子が分かる資料の展示

④学問と教育

明治維新を支えた造士館や開成所、郷中などでの藩士の教育、藩外・国外への留学などについての資料を展示

⑤幕府・朝廷などとのつながり

幕府・徳川将軍家や朝廷・近衛家との関係、他藩の人々との交流などについての資料を展示

(2) 郷土の偉人達

①島津斉彬と久光

近世の島津家以来の流れと、島津斉彬・久光の資料を展示

②西郷隆盛と大久保利通

西郷隆盛や大久保利通の資料を展示

③近代国家の成立と発展に尽力した人々

経済活動を重視して活躍した人々や殖産興業を図った人々(五代友厚・石河確太郎など)の資料を展示

(3) 薩摩藩近代化への取り組み

①薩摩の在来技術と近代化事業

「明治日本の産業革命遺産」に係る、関吉の疎水溝、高炉などのジオラマと資料を展示

②薩摩藩の力

鳥羽の戦い、薩摩藩の砲兵のジオラマと資料を展示

③日本の近代化への貢献

小菅修船場跡、日本銀行などのジオラマとパネルを展示

(4) 特別展示

エアタイトケースを導入し大久保家資料（重要文化財）などの貴重資料を展示

(5) 玉里島津家

「玉里島津家」のコーナーを充実させ、分かりやすく資料を展示

※ 展示ケースの一部を、展示替えを行うことを前提とする設備に改修し、より多くの人物をローテーションで紹介できるようにする。

4 展示設備や複製に係るリニューアル

(1) 展示設備（照明、空調、ケース等）の改修

- ・2階部門別（歴史）展示ケースのLED照明への転換
- ・調光可能な照明の増設
- ・ケースごとに温湿度調整可能なエアタイトケースの導入

(2) レプリカの購入

展示による原資料へのダメージを回避するための複製を作成

(3) ジオラマの製作

明治日本の産業遺産に係るもの、戊辰戦争における薩摩藩兵の様子などをジオラマで再現し設置

5 案内に係るリニューアル

(1) 外国人対応（外国語案内板、解説パネル等の製作）

総合案内、各階に設置された館内案内図、常設展示における様々な案内（サイン）、解説文（グラフィック）など

(2) 音声ガイド用の機器等整備

日本語、英語、中国語（簡体・繁体）、韓国語（以下：4か国語）対応のシステム（タッチペンやスマートフォンに対応するもの）の導入

※ 日本語版は、視覚障害を持つ入館者に対して有効であり、バリアフリー化の一助となる。

※ 来館者所有の携帯端末やパーソナルコンピュータを利用する方法は、アプリケーションやOS（オペレーション・システム）に影響されず、簡単に利用でき、端末の貸出やメンテナンスなどが不要となるメリットがある。また、

文字による解説は聴覚障害者に対して有効であり、バリアフリー化の一助となる。

6 リニューアルの対象となる箇所

第Ⅰ期工事：常設展示1階エントランス及び導入エリア

第Ⅱ期工事：常設展示1・3階

第Ⅲ期工事：常設展示2階

第3章 リニューアルの工程

先進館調査（平成28年度）

1 関東

- ・江戸東京博物館 ・郵政博物館
- ・横浜みなと博物館

2 中部

- ・福井県立若狭歴史博物館
- ・石川県立歴史博物館

3 近畿

- ・国立民族学博物館 ・大阪国際平和センター
- ・京都国立博物館 ・三重県総合博物館 MieMu
- ・四日市市立博物館

4 中国

- ・山口県立博物館 ・下関市立長府博物館

5 九州

- ・福岡市博物館 ・九州国立博物館

資料調査・協議（平成29・30年度）

1 資料調査

(1) 北海道

- ・五稜郭タワー ・函館市博物館
- ・函館護国神社

(2) 関東

- ・外務省外交史料館

(3) 中部

- ・博物館明治村

(4) 近畿

- ・京都国立博物館 ・城南宮

(5) 九州

- ・都城歴史資料館 ・出水麓武家屋敷群
- ・尚古集成館 ・鹿児島県世界文化遺産課

2 協議

- ・文化庁 ・東京文化財研究所

設計書の作成及び展示制作期間等

企画書作成の業務委託はプロポーザル方式で選考し、株式会社丹青社に委託した。

以後、施工力と併せて開館時と前回の常設展示リ

リニューアルに際し、当館の基本構想に沿った設計・施工を行っている実績などを総合的に判断し、設計書作成及び展示制作業務を同社に委託した。

1 平成28～29年度

- (1) 企画書作成
- (2) 基本設計書作成
- (3) 実施設計書作成
- (4) 事業第Ⅰ期展示制作業務
場所：常設展示1階エントランス・導入エリア
履行期間：平成29年10月26日

～平成29年12月21日

完了年月日：平成29年12月21日

2 平成30・令和元（平成31）年度

- (1) 第Ⅱ・Ⅲ展示制作業務
常設展示1～3階
履行期間：平成30年6月12日
～令和元年7月12日
完了年月日：令和元年7月12日
- (2) リニューアル・グランドオープンセレモニー
日時：令和元年7月19日（金）午前10時～
解説：主任学芸専門員兼学芸課企画資料係長 吉井秀一郎
学芸専門員 吉村 晃一
主 事 小野 恭一

- (3) リニューアル・グランドオープン記念「明治維新コーナー」見所見学会の開催
日時：第1回 7月20日（土）13:30～
第2回 7月21日（日）13:30～
解説：主任学芸専門員兼学芸課企画資料係長 吉井秀一郎

第4章 リニューアルの実績

多言語化対応（1～3階）

1 4か国語に対応した音声ガイドシステムの導入

- (1) タッチペン式音声ガイド「音えんぴつ」
音声ガイドに用いるデータは解説パネル用原稿を音声化したものを使用した。利用者は、コンパニオン又は展示解説員に申し出て、音声ガイドシステム貸出申込書を提出して使用する（無料）。貸出・返却は1階チケット売場で行う。
- (2) ミュージアム展示ガイドアプリ「ポケット学芸員」
スマートフォン等にアプリをダウンロード（無料）し、利用する。

2 4か国語対応の案内・展示解説パネル、券売機への更新〔画像3・4・5〕

照明のLED化

照度調整可能なLED照明を一部導入し、資料に優しく、見やすい照明に改修〔画像6・7〕

部門別展示室－歴史－（2階明治維新コーナー）

- 1 導入映像「明治維新とは」の映写〔画像8〕
当館の収蔵資料を中心に制作。明治維新と薩摩藩・郷土の人々の関わりについて語りかける約2分間の映像を映写した。
- 2 レプリカの展示〔画像9〕

当館収蔵の絵図資料の中から「鹿児島城下絵図屏風」、薩長同盟が結ばれた場所とされる近衛家の別邸の「御花畑」、高輪屋敷絵図「上屋敷総絵図面」4点のレプリカを製作・展示した。資料の材質や保存状態から展示の機会を選ばざるを得ない資料であったが、レプリカを製作することで展示の機会を増やすことができた。

- 3 エアタイトケースの導入〔画像10〕
国宝や国指定重要文化財の展示用に、気密性が高く温度や湿度を管理できるエアタイトケースを設置し、貴重な資料を展示した。

- 4 ジオラマテーブルの設置〔画像11〕
薩摩藩や郷土の人々が明治維新で果たした役割などを、戊辰戦争や明治日本の産業革命遺産に関連する3つのジオラマテーブルに7基のジオラマを配置し、分かりやすく展示した。

(1) 薩摩の在来技術と近代化事業

① 関吉の疎水溝（S=1/100）

集成館の水車に水を供給する疎水溝の取水口付近の幕末期の様子を再現した。世界文化遺産「明治日本の産業革命遺産」の構成資産である。集成館事業では高炉（溶鋳炉）や鑽開台（大砲の砲身に穴を開ける装置）などの動力に水車が用いられた。水位を取水口の高さに維持するために沈めた蛇籠など、当時の取組と工夫を見ることができる。

② 高炉（溶鋳炉）（S=1/30）〔画像12〕

現存する絵図を参考に幕末期の様子を再現した。高炉は砂鉄や鉄鉱石から鉄を大量に造る製鉄施設で、反射炉と同じく、オランダの技術書をもとに薩摩の在来技術を応用して建設された。流れ出る鉄や水車を動力とする鞆（ふいご）の様子などとあわせて、内部の構造がわかるパネル解説を加えた。

(2) 薩摩藩の力

③ 薩摩藩の砲兵（S=1/10）〔画像13〕

四斤山砲を発砲する場面を再現。薩英戦争以来、軍備の近代化に努めた薩摩藩は、砲兵を戦力として効果的に運用し、新政府軍の勝利に貢献した。

④鳥羽の戦い（S =1/100（人：1/87））〔画像14〕

大坂城から京に進む旧幕府軍と、薩摩藩と長州藩を中心とする新政府軍が鳥羽街道と伏見で戦った。進もうとする大目付 滝川具挙と阻止する薩摩藩士 椎原小弥太との交渉が決裂した場面を再現。薩摩藩が城南宮から鳥羽街道までの道沿いと「秋の山」や鴨川沿いに兵を潜ませ、縦隊で進む旧幕府軍を包囲する布陣を終えていた様子が分かる。

(3) 日本の近代化への貢献

⑤小菅修船場跡（S =1/90）〔画像15〕

時期を明治前期に設定し、薩摩海軍の春日丸がドック入りしている場面を再現した。明治元年12月（1869年1月）に竣工した蒸気機関を動力として船体を陸上に曳き上げて修理を行う日本初のスリップドックである。薩摩藩（小松帯刀・五代友厚）と英国商人トーマス・グラバーが共同で建設した。

⑥ブリュナエンジン（富岡製糸場）（S =1/15）〔画像16〕

鹿児島紡績所や堺紡績所など、日本各地の紡績所を建設し、群馬県の富岡製糸場でも御雇機械掛として指導に当たった石河確太郎による技術者の育成と指導の様子を再現した。

⑦日本銀行（S =1/10）〔画像17〕

日本銀行（旧北海道開拓使物産売捌所）を背景に、初代日銀総裁 吉原重俊が大蔵卿 松方正義へ語りかけている場面を再現した。

第5章 展示制作以外の委託業務

展示資料の移動と展示

今回は常設展示全体を閉室せず、第Ⅰ～Ⅲ期工事に分けた部分閉室で工事を実施した。第Ⅱ期工事と第Ⅲ期工事ではウォールケースの解説パネルの貼替に伴い、2回の展示資料の移動と展示作業が必要となった。そこで、専門業者に委託し、専用の中性紙保存箱及びパンケース等に収納・梱包した上で移動、工事完了後に展示を行った。入館者への配慮から、第Ⅱ・Ⅲ期工事ともに、閉室する階から資料の一部を開室する階へ移動した上で展示した。

資料の移動に伴い燻蒸を行い収蔵庫に保管する方

法も検討したが、文化庁・東京文化財研究所との協議の結果、（ア）移動距離が最も短い、（イ）展示環境の変化が最も少ない、（ア）・（イ）の条件を満たす『展示中のウォールケース内に、破損を回避する梱包を行いつつ保管する』方法を選択した。

1 作業日程

移動：平成31年2月21日（木）・22日（金）

展示：平成31年4月9日（火）・10日（水）

移動：平成31年4月17日（水）・18日（木）

展示：令和元年7月13日（土）・15日（月）

午前9時30分～午後5時

2 作業担当

委託業者及び学芸課

委託先：日本通運株式会社鹿児島支店

3 作業場所

常設展示1階

4 保管方法

中性紙保存箱及びパンケース等に収納・梱包した上で、ウォールケース内に保管し、施錠する。

音声ガイドアプリへのデータ入力

展示ガイドアプリ用の音声データは、タッチペン式音声ガイド用のデータを、アプリ用に変換し、入力した。

委託先：株式会社エヌ・ティ・ティ・データベース九州

おわりに

平成28年度にまとめた有識者の意見を参考に明治維新コーナーで展示する郷土の偉人を絞り込んだが、多くの偉人を輩出しており、スペースに比べて展示候補者が多かった。このため今回のリニューアルでは、これまで固定していた解説パネル等を全て移動式に変更し、スペースの増減とパネルの追加・変更が可能な柔軟な展示設計とした。「明治維新コーナー」では、2008年の篤姫、2016年の五代友厚の例もあるように、ドラマなどメディアの動きや最新の研究成果によって、全国的に注目される人物が新たに出てくる可能性があり、柔軟な展示設計とすることで、変化に迅速に対応できる設備が整ったといえる。

また、協議を進めてきた文化庁へリニューアル完了の報告を行い、エアタイトケース設置後の環境測定の結果などについての情報を共有した。ケースに設置した換気機能を使用した際の展示環境の変化を把握し、一定期間に渡る継続した測定結果に基づいてエアタイトケースの運用マニュアルを作成するこ

と、東京文化財研究所が開催する研修等に定期的に学芸員を派遣し、情報共有を継続して進めることなどについて、指導・助言を得ることができた。

リニューアル事業の完了は、常設展示の新たなスタートであり、今後は活用に向けての課題を一つずつ解決していきながら、より多くの入館者に満足していただける常設展示を目指して取り組んでいきたい。

〈指導・助言・協力者一覧（50音順・敬称略）〉

浅川 道夫	安藤 保	伊牟田 均
宇田川 滋正	小川 学夫	尾口 義男
尾前 喜八郎	切通 雅子	楠元 香代子
桑波田 武志	五味 克夫	笹川 理子
佐藤 宏之	鮫島 吉廣	塩満 郁夫
新東 晃一	竹本 知行	田中 完
多比羅 菜美子	玉川 恵	堂満 幸子
徳田 勝章	鳥羽 重宏	中田 勝紀

中村 明蔵	永山 恵子	奈良迫 英光
原口 泉	日隈 正守	松尾 千歳
松永 太郎	三木 靖	宮川 禎一
宮廻 甫允	宮下 満郎	宮地 正人
山崎 美智子	山下 欣一	山下 廣幸
山家 浩樹	吉田 直人	渡辺 芳郎

〈令和元（平成31）年度学芸課職員一覧（50音順）〉

井手口 浩子	飯伏 美朝	内倉 昭文
大坪 亜也子	小野 恭一	檜木 芽衣
鎌田 麻由	上村 俊洋	切原 勇人
黒川 忠広	坂之上 綾乃	崎山 健文
竹森 友子	田平 晶子	中村 友美
濱平 有里	深港 恭子	帆北 智美
宮下 愛	吉井 秀一郎	吉満 郁恵
吉村 晃一		



明治維新コーナー
画像1
リニューアル前



画像2
リニューアル後



画像3 総合案内パネル (日, 英, 中 (簡・繁), 韓)



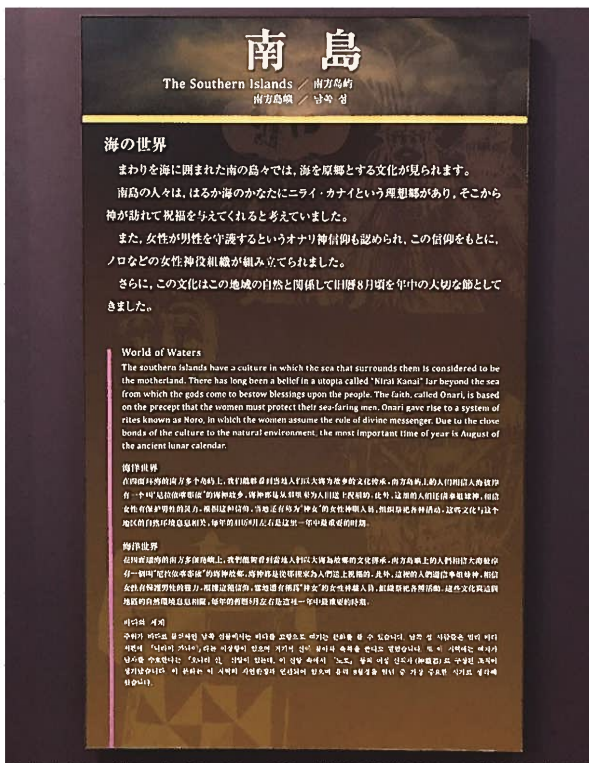
画像6 LED照明の導入 (床下地形模型)



画像4 常設展示入口



画像7 常設展示1階 テーマ別展示



画像5 解説パネル (日, 英, 中 (簡・繁), 韓)



画像8 常設展示階明治維新コーナー 導入映像



画像9 鹿児島城下絵図屏風 (レプリカ)



画像10 エアタイトケース



画像14 鳥羽の戦い (ジオラマ)



画像11 ジオラマテーブル



画像15 小菅修船場跡 (ジオラマ)



画像12 高炉 (ジオラマ)



画像16 富岡製糸場 (石河確太郎) (ジオラマ)



画像13 薩摩藩の砲兵 (ジオラマ)



画像17 日本銀行 (松方正義・吉原重俊) (ジオラマ)